

Happy birthday

校 長 武井 正明

先週水曜日、義母が 86 歳の誕生日を迎えました。

その朝、「おはようございます。お義母さん、誕生日おめでとうございます」と言うと「ありがとうございます。今日で 87 になりました」と返してきた。

「えっ？お義母さん 86 じゃないですか？」「ハイ 86 じゃないですよ、87 です。いや、88 だったかな…」それはない。訊いていくとどんどん増えそうなので、やめにした。

一昨年までは、冷房嫌いの親父との小競合いが恒例だった夏だが、こちらのご婦人もなかなかの難敵だ。電気もあまり点けたがらない。歳とると、みんなこうなるのかな。

「お母さん、この部屋 29.5℃ですよ。暑くないですか？28℃にしましょうよ」「いいえ、寒い嫌なんですよ。廊下から風が入って、しかも涼しいですよ」そう言いながら首にはタオルを掛け、額には玉の汗。これで涼しいって…。

その日は妻がケーキ（ショートを変更してホールにしてもらった。義母はたいそう喜んだ。やっぱり代えてよかったじゃん）私は奮発して八色西瓜を買って帰った。（妻は小さいやつを想像していたらしく、大玉の西瓜を見て少々困惑していた）

夜は臨月の娘も帰って来ていたので、賑やかな誕生会となった。

やっぱりいくつになっても誕生日を祝ってもらえるのは、嬉しいものなのだろう。

「今日はお義母さんが『主役』ですから」「そうだよ。おばあちゃんが主役だよ」「そうなんですかあ〜」満更でもない。ニンマリ笑顔が返ってきた。

皆で部屋を暗くしてハッピーバースデーを歌い、6 本のろうそくを吹き消す。これがひと苦勞。何回も息を吸い込み、ようやく消えた。そして皆で拍手。義母は満面の笑顔で手を合わす。86 歳本当に、おめでとうございます!!

実は私は、吉中の総ての教職員の誕生日を、備忘録にメモしてある。

えっ!? ひとりひとりに誕生日が来たら「おめでとうございます!!」って？

違う違う。そんなことはしません。

誕生日はその人とご家族にとって、この世にデビューした特別な日。

だからその人には、誕生日は機嫌よくすごしてもらいたい。例えば仕事でミスをして、極力「その日」は避け、指導は後日にします。それが理由。誕生日に叱られるなんて最悪ですから。それは学級担任の時も、生徒に対してそうしていました。

教師にとっては「いつものすべき指導」でも、子どもにとっては「誕生日なのに武井に怒られた」と別の感情が入ります。それは嫌な思い出として遺ってしまいます。

誕生日はお互いに機嫌よくすごしましょう。

今日も吉中 2 年生ふたりが誕生日です。誕生日の君たち 14 歳おめでとう!! いい日にね。